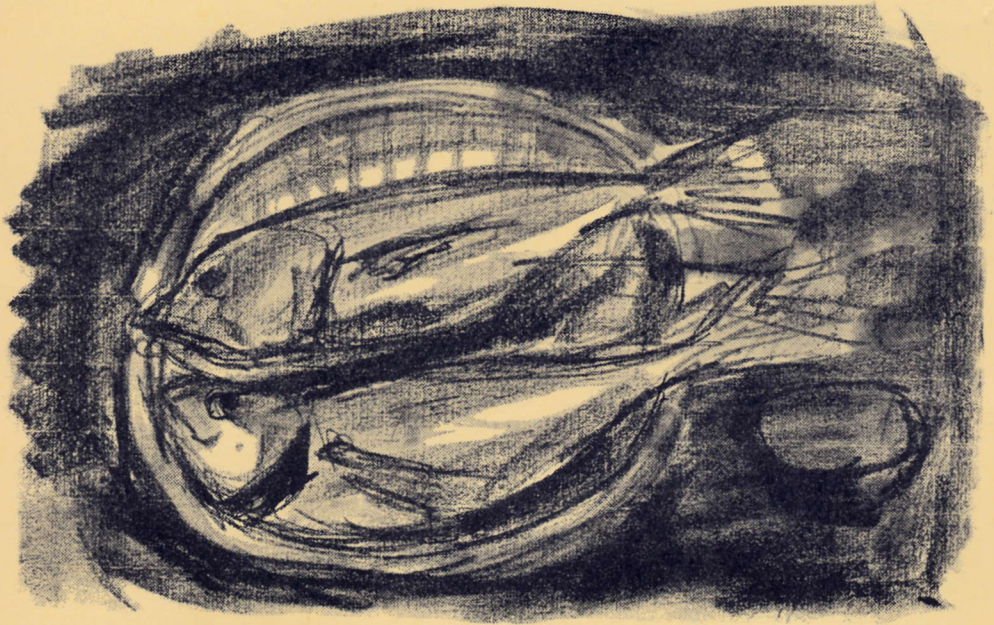


# 紫 筍



— も く じ —

## ■ 第3回同窓会総会を顧みて／編集部（7）

▶ 曲り角へ来た同窓会／長谷部信（2） 紫筍のあゆみ／皆葉賢（4）

▶ 御挨拶／山田孝（5） 声（13） 休憩室（16）

▶ ずいそう／やまもと・しげお（19） 黒岩健一（20）

—表紙— 山田孝雄—（7期）

# 文京高校同窓会報 No. 7

# ◎ 会 計 報 告

東京都立文京高等学校同窓会会計報告

昭和36年4月1日～昭和37年3月31日の間. 会計は次の通りです

昭和37年4月1日

会 長 長谷部 信 ㊟

会 計 西 岡 弘 ㊟

監査の上, 正確であることを認証します

会計監査 静 谷 晴 夫 ㊟

末 正 明 ㊟

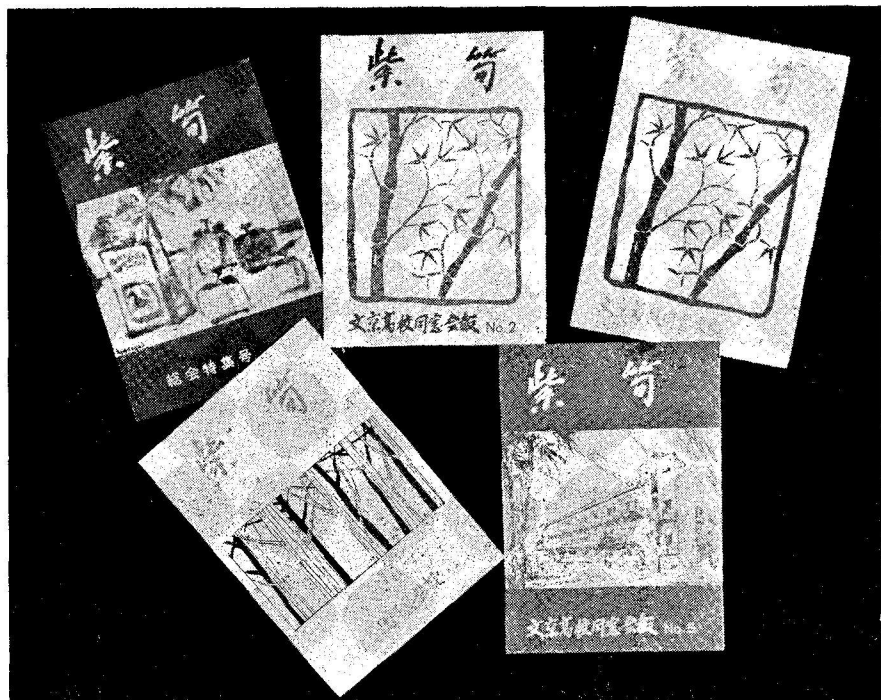
## (1) 財 産 目 録

イ) 金銭の部		
貸 付 信 託		4 0 0, 0 0 0
現 金		1 2 9, 1 8 6
計		5 2 9, 1 8 6
ロ) 物品の部		
葉 書 印 刷 機		1 個
書 類 入 れ		1 個
手 提 金 庫		1 個

## (2) 収 支 決 算 書

収 入 の 部		支 出 の 部		差 引
寄 付	3,500	運 営	10,304	
入 会 金	214,800	会 報	59,873	
銀行利子	21,597	発 送	36,250	
雑収入(総会)	44,400	事 業	68,450	
前期繰越	419,766			
	704,063		174,877	529,186





「紫筍」は、同窓会活動の中心となって6才をむかえた。今後ますます発展する同窓会の為に、会員諸姉の声を反映し、併せて同窓会誌としての意義を、さらに、たかめてゆくであろう。尚、第1号はタブロイド版で「同窓会会報」の名で発行され、第2号から現在のA5判に改められた。これまでになるには、旧1期川上氏の御厚意があり、特に印刷面でお世話になった。

◎神田で伝統と信用ある店

◎一冊でも御利用と御用命下さい

◎本校創立当時より御指定（図書館並に教科書納入）

（新刊一般書・中高大教科書納本・和漢洋全集）  
 双書・美術書・その他売買（御報参上）

## 大雲堂書店

東京都千代田区神田神保町1-9  
 都電(渋谷⑩新宿⑫早稲田⑬行)停留所前  
 T E L (291) 1 6 1 5

# 曲り角へ来た同窓会

会長

信 部 谷 長



昭和三七年度の同窓会の活動を紹介します。会員数は、新入会の第九期生を加え約四千五百に増加しました。行事は、本年は総会を開きませんでした。行「紫筍」の発行。「進学・就職懇談会」

の開催。親睦を図る意味での集会を開く等々の三点にしばって活動を始めました。「就職・進学懇談会」は、六月に開き卒業生と在校生の交換が活発に行なわれたので当初の目的を達したといえましよう。会誌「紫筍」の発行は、数回の編集企画会議の結果（第二号、第六号の内容を検討して）

一、三六年に開催した第三回同窓会総会の総決算

二、新入会員、旧職員による文京高校、並びに同窓会に希望すること、期待すること、

三、母校日より等に決まり別に特別寄稿を学校の近くの人達から、文京高校生気質々を語ってもらうことになりました。

さて第三の親睦会の件は、昨年の第五号の稲崎学校長の「学校の近況」にもあった新校舎の増改築が、完成に近いので新装なった母校の偶で懇親会を開いてみたいと思っております。

さて以上の行事日程は、前会長の静谷氏が敷かれた路線にそって私たちが計画をたてるのですが、実のところ現在そろそろ好い時代を踏襲して活動を進めるのが困難になって来ました。理由は皆葉副会長の説明にゆづって曲り角に立った「私たちの同窓会」をいかに生長させるかについて考えてみたいと思います。

同窓会で早急欲しいものを三つ挙げてみましょう。この問題が曲り角をのり超える基本線になるのです。それは「人間」「金」「時間」の三つですが（人間）とは、四千名の意志を会に反映させるためには、どうしても各クラスの代弁者たる人達が必要なのです。現在、各クラスの幹事は百名以上いるのですが、各人多忙を極め、同窓会の仕事をする事が不可



能な方が多いので新たに各クラスで選んで欲しいのです。クラス会で是非、議題にとりあげて各クラスの代表者を幹事に送り込んでいただきたいと思ひます。次に(金)の問題は、物価の高騰に伴なうもので現状では、活動を縮少すること、かつ併せて現在同窓会費が終身会費制なので、先輩からの寄付金を高年次から御願ひすること等やってみたいと思ひます。すでに旧制三期までは一部寄付をいただいておりますがこの問題は慎重に運ぶ必要があります。第三の(時間)は、誰しもがかかえている大きな問題で同窓会の仕事がいかに幹事個人の生活を侵害したり制約するか、意欲はあってもどうしても出られないという例が沢山あるので、

す。が、会のリーダーとしていえることは各個人の許される行動時間をいかに有機的につなげるかにあり、多分に技術的に解決できる面がまだ残されているように思ひます。本年度の常任幹事諸君

は、最悪の条件の中で活動を続けております。三七年卒業のファイトある人達を軸にして、活動がすすんでいるので、新鮮な空気を吹きこんで文京高校同窓会を脱皮させる機会ともいえるわけです。

本誌三号の誌上で静谷前会長は、曲り角の問題を全会員に訴うと提案されております。同窓会は苦しいながらも数名の有志とわずかな予算で可能である最大限度まで成長している、現在より一層の飛躍的發展それは一つにあなたの同窓会に対する現況如何にかかっている。あなたの意見を、あなたのわずか五円の葉書と三分間の労力とにかかっている。私たちが同窓会の最大の基盤となつていっているという言葉を紹介しておきます。

さて運動会、文化祭が近づいてきました。よく、まだ卒業してから学校を訪れたことがないと聞きます。私なども、同窓会の仕事をする前は、実に六年間、大塚へ行つても、学校へたち寄ることなどはありませんでした。その私を引きつけ

たのが運動会、文化祭でした。同窓会総会が、毎年開催できないので、会員諸君姉には是非この機会を逃かさず交換、親睦の場として活用していただきたい。

先に述べた親睦会を運動会とか文化祭に併行して行なうことは実現できないと思ひますので、当日同窓会員が、交換できる場所は、設営いたします。みなさん誘ひ合つて是非出席して下さい。

私達は、当面かかえている問題を処理してゆく事に全力をそそがなければなりません。抜本的な体質改善を目標に研究しなければならぬのですが、本年は、組織づくりといわゆる症状についての治療、対症療法をするしか余裕はなさそうです。したがつて同窓会活動への意見を静谷前会長が、いみじくも述べられた方法で協力して下さいを期待しております。

文化祭 十月十一・十二日 開催  
体育祭 十月十四日

# 紫筍のあゆみ

## —同窓会の経過と予定—



副会長 皆 葉 賢

盛夏の昼下り「太ったな。まだ同窓会のことやってるの」とは一先輩のごあいさつ。もたもたしていたせいかそのことで文京の門をくぐってからもはや十年近くなつた。みたび同窓会をふりかえれば、まず因果なところへひっぱりこまれたものだと考える。他人の銭のことで頭を痛めねばならぬのだから。況んや、昨今の世智辛さでは尚一層のこと。会の収入は多少増えたといえども支出にはこんで追いつかない。細に入って恐縮だが紫筍第五号に要した費用が、先輩諸氏のお骨折りで四千部で約七万、その送料が約四万。困つたことにどこへでも払える予算が十万。仕様がなから、本郷の局、板橋の局とリヤカーを押しして区別郵送。年度末決算でトントン。皆んなでバンザイ。会員諸氏にはこれで感激しては困る。今年の予算会議で長谷部会長曰く今年は印刷費関係で四割位値上りと。少しく、接物平等の心でいたんだが、値上りのことを聞かされたので幹事をやめたい

と申し出たら代りの人を連れて来いとのこと。こんな具合で、恐縮ですが幹事をやっていただけませんかとどんな先輩面が出来ましようや。毎年紫筍をつくり後輩諸君のために進学、就職案内をやったり、まあ良くやってきたけれど、そろそろ五年ぶりに名簿を作らねばならない。いやはや頭痛薬が欲しくなつた。鎮痛剤求めようとすれば先づ収入源さがさねばならない。「入会金の値上げ」で全会員をうるおすか。それとも会主催の会費を多少「鯖読む」か。全会費をうるおすほどの値上げは不可能だし会が「あきない」をすることは感心しない。あれやこれや考えてみると一番簡単に出来そうなのは、「紫筍」の発行を数年に一度にしたり総会の回数を加減したり、名簿の発行を不本意ながらも予約制にしたりして、出来るだけの支出をおさえることである。「紫筍」発行を、総会の回数をこれ以上減らせば不満も出そうだがそうしなければ万年頭痛だらう。

# 挨拶

学校長 山田 孝

私は、前校長の稲崎先生にかわって、この四月本校に参つたものです。郷里は茨城県、高校は水戸。履歴は平凡な教師の半生でして大学を出てからもう三十年になります。佐倉大多喜など千葉県の中学でまる九年、東京では豊多摩高校で十四年、前任校の足立では六年半を過ごしました。齢は五十五才になったところ、教師としての残年はいくばくもありませんが、幸に身体は強健好調、子供じみて時には冷水的と苦笑される元気さはまだ失っていないつもりであります。

足立高校に通う山手線往復の途次、毎日のように大塚を過ぎていたわけですが、駅近くにある本校の存在などほとんど頭に浮かぶこともなく、学校の状況などもあまり知ることがありませんでした。それでも本校が、私の長く勤めた豊多摩高校（昔の府立十三中）と同年に市立三中として創立されたことなどその当時聞いてはいましたし、戦後いつの頃か一度本校をお訪ねしたことがあり、豊多摩など多くの学校が迷彩いまだ残る見すばらしい校舎に戦争の傷痕を留めているとき、他に類のない鉄筋白亜の堂々たる本校校舎をながめて驚歎羨望し、また奥田先生が独特の風格をもって世俗に超然

として本校教育を楽しんでおられるのに、深く心をうたれたことであります。それにしても学区がちがうためもあって私にとつて本校は関心もない無縁の学校に近かつたのであります。今回はからずも本校に転勤を命ぜらる。心新たなるを覚えております。一日も早く本校の校風や伝統を知り、私の微力を尽くしたい。三十年間日々これ好日、私は今日までこの学校でも非常に恵まれた楽しい年月を送り得たのを常に幸とし誇りとしていますが、本校でも然かありたいものと思つております。

卒直に申しまして、私の本校着任のはじめ、校舎増改築中でもあり休みあけでもあり春の狂風の吹き舞う頃でもあつたからでしょうか、紙屑は到る処に散乱し、学校全体がうす汚なく生徒の態度もだらしなく思われ、「往年のモデルスクールも年をとつたのかなあ」というような感じがしてなりませんでした。ですから、「学校は奇麗に清潔に、態度は礼儀正しく節度あるよう」これが生徒諸君に呼びかけた私の最初の言葉でありました。しかしながら同時に、私の転任に際して先輩知友は様々の言葉を寄せてくれましたが、「文京は小石川や北園に迫らんとしている学校だ。しつかりやり給え」との激励も多かつたのであります。何をもちつて学校の上下を定むるか。その如何は別として、こんな言葉の中に本校躍進の力が語られているようであり、愉快に思つたのであります。本校にはその力があるのだ。かかる世人の期待もあるのだ。



単に進学率だけの話ではありません、寧ろそれを越えた学校教育活動の全般にわたって、創立二十年を過ぎたというものの、動脈硬化におちいることなく、常に若々しく潑漑たる気力のある学校であってほしいものであります。日に新たに月に新たに「これはいつも私自身を内省している箴言であります」が同時に学校教育に対する私の熱望でもあります。

今年一月に始まった校舎の増改築工事は予定通り七月の終りに竣工しました。これによって教室が五つ、従前よりずっと広い校長室職員室会議室事務室と図書室、それに保健室用務員室などが、新改築されたわけでありました。教室の増加によって来年度以降急増する入学者（十学級募集）を一応収めることができずし、新しい職員室や事務室は今までの身動きも容易でなかったような目白押しの一部屋にくらべてどんなに教務や事務の能率を高め得ることでしょう、新図書室もこの広さを得て更に一段と充実しいよいよ生徒の楽しい読書勉学の場となることでしょう。本校の校舎建築はこれによって体育館を除いて完了したことになります。二十六年のはじめ、他校に先んじて建てられた本校の体育館は、当時は大いにうらやまれたものでしょうが、今や老朽狭小、活潑な高校体育の場として不適當であり、膨張せる生徒を収め得ません。体育館の改築、これこそ本校今後の努力の目標であり、時節柄多くの困難がありますが、三・四年後には是非とも実現したいものであり、その時こそ盛んなるお祝いの会でも催

し、本校校舎の完成を寿ぎたいものと存じます。校舎の増改築工事は終了しましたが、運動場の整地をはじめなすべきことは余りにも多く、内部の施設や備品など新進校にも及ばざるものがあるようであります。これらは都費だけでは如何とも致し難く、PATのご協力を得て、追々に充実させてゆきたいものであります。教育の根幹は精神の問題に帰着するとは申しませんが、すべての施設や設備は直ちに生徒にはねかえりません。何事にあれ他に遜色のない最善の状態に近付けたいと存じます。同窓会の諸君。はじめてのご挨拶ですので、自己紹介やら本校教育についての私の願ひめいたものや、工事落成のご報告など、長々と書き綴りました。ともあれ、私には元氣一杯に頑張つてゆきたいと思つています。何卒然るべくお力添え下さい。同窓会をして単に往時追懐の交歓会だけに終らしめず母校の後輩を激励指導する役目も大いに果たしていただきたいものであります。その際くれぐれもご留意を願ひたいことは現在の学校の教育方針を十分ご理解になり、先生方と緊密の連絡をとつてからにしていただきたいことでもあります。然らずんば、往々他校にその例を聞くがごとく、同窓先輩の努力も母校にかえてマイナスとなる場合もありがちなのですから、かつて私どもの苦勞して育てた豊多摩の同窓会と同じく、諸君も若く同窓会も若く、様々な困難な問題もあろうと存じますが、幹部諸君の努力によつていよいよ発展されるようお祈り致してやみません。(一九六二・九・六)

## 第三回同窓会総会を顧みて

### 今後の総会のあり方

待望の総会が昨年十一月二十六日に開かれた。場所は、大塚の茗溪会館で総会を校外で待つことは初めてであったため、会長をはじめ幹事は全員ひじょうに心を配っていた。しかし正午開会を前にして新卒業生が早くも姿を現わし都電地下鉄から続々集り、そして稲崎校長、奥田元校長他、先生方も出席。恩師、先輩・級友とそれぞれなごやかに話題が咲き、四時すぎ終了した。

同窓会幹事の総会に対する準備から、参加した人達の意見などを、整理しこれからの会の持ち方などの反省の材料に、そして残念ながら参加出来なかった会員への報告もかねて第三回同窓会総会始末記なるものをまとめてみました。

まず企画の経緯、そしてきて開催したらどうか。そして参加者の意見について主催者側幹事としての所感という順序にします。

### 総会の開催計画

#### (一) 会場

母校が増築中のため、他校の総会方法を聞きながら選んだ、一切の余興を行わずに雑談形式（縦と横のつながりを目的とした）にするべく企画したのでホールの中にくつかの島を設け、そこに茶菓子を置くように考えたが、会場主との交渉の結果ホールの広さ等の関係もあって、非常に

#### (二) 会費

不本意ながらも、テーブルを川のように並らねばならなかった。次回には多少会費を組上げして野外パーティの方法を検討したらとも思案している。

これも会場（形式）と共にひじょうにキーポイントの一つである。今回の二〇〇円で行った場合やはり会場の広さに影響してくる。しかし会費を高くした場合母校を卒業して、四、五年の会員諸氏にはいささか考えるところが生

ずる。(例、北野高校の場合、プリンスホテルで会員五〇〇円で野外パーティを行った時集った会員は一二〇〜一三〇人位だったそうだ。(そしてオババさん達が多かったと)つまりオールド会員には負担を感じなくとも、ヤング会員には重く感ずる。

お父さん、お母さんであり、地位、余裕もあるオールド会員にはその負担を感じなくとも参会する時間が比較的に。そうした場合、どの期を一応の目安にして、どの位の会費にしたら良いか非常に難しい。結局二〇〇円位が妥当だろうと定めた。

(三) 時期

春 新年度早々のためにまずどう考えても無理である第一

予算もなにも無いんだから。

夏 四月からでは最初以後輩諸君のフアイトを期待しそしていつも教室を借りたりして世話になっている母校のために進学就職案内をやらねばならぬ。夏休みを有効に過してもらうためにも。

秋 四月の予算会議から半年も過ぎるので同窓会の運営上からもまた時期的にも良い。

冬 これは、クローク等、荷物その他の副産物の処理に都合が悪い。暖房設備も欲しいとなってくるので母校ではとても出来ないし、良い所があればとて予算の関係で考えさせられる。

結局のところ会員諸氏には年末に向って非常に多忙であろうとは重々察しても秋期開催(十月、十一月)が妥当であろうという結論になった。学生の試験期も考慮して一応十月という線が出た。

アンケートにあらわれて総会への希望

前に述べたような経緯のちに会が開かれ当日集めたアンケートによってその内容をみてゆきましょう。

当日の出席者は二三九名。予想をほんの僅か上まわる出席者であった。これを期別にみると、

旧一期	三名
二期	二名
三期	二名
四期(新一期)	四名
新二期	一名
三期	六名
四期	一名
五期	一三名(八名)
六期	八名(〇名)
七期	一名(三名)
八期	三名(〇名)
九期	三二名(一〇名)



十期 一一名 (四名)

十一期 三六名 (一一一名)

十二期 四九名 (二一名)

十三期 四七名 (二三名)

(カッコ内は女子で内数)

やはり11、12、13期という初参加組が多く、旧制、新制初期の方は多忙、転居のためでしょうか出席者が少なかった。また先生方の出席も五名を数えたのみで、次回には多数の方に  
出ていただくつもりです。

### アンケート回答総数

当日くばり記入していただいたアンケートの回答総数は一一〇名(内女子二六名)で回収率はあまりよくありませんが、同窓会員(特に積極的な)の一断面がわかると思います。

### 職業別

出席者を職業別にみると

会社員 四五

学生 四三

自営 八

公務員 六

家事 一

その他 八

不明 6

(一部ダブッテいる者がいる)

### 居住地

また出席者の居住地であるが、これは会場への距離、交通機関等も関係してくるが、

北区 二九

文京区 二四

豊島区 二二

板橋区 一〇

新宿区 六

渋谷、杉並、練馬、中野各区、各二

その他 一一

遠い所では柏市、茅ヶ崎市等遠路はるばる上京して下さった熱心方がいて意を強くした。

### 総会開催回数

総会は現在三年に一度開催しているが、これに対して

三年に一度 四一

隔年開催 四二

毎年開催 一六

その他 一一

しかもこの数字は次表に表すとおり年齢が若いほど開催回数が多いことを求めている。

三年	隔年	毎年	その他	計
2				1
	1			2
1				3
	1			4
4				5
4				6
3				7
5				8
3				9
	5			10
	3			11
	14			12
	5			31
	2			不明
				計
				11
				16
				42
				41

### 今回の総会について

次に「今回の総会について」という問に対しては、三六名の回答があり、二一名が「大変面白かった」「良かった」と賛意を表し、一五名が不満をもっている。

賛意の方は省略して不満意見を列記すると

総会とは何を目的とするか

二百円にはお粗末な菓子だ

時間的にルーズ

もう少し自由に歩けるように

先生が少ない

集りが悪い

つまらない

やはり学校の方がよい

「総会」は級、期等の横の関係だけでなく、「文京」という縦の関係でめったに会えない先輩と後輩が顔を合わせ楽しく談笑するための会だと思っております。また次に「二百円はお粗末だ」とありますが、会場費等を含めますと一人当り

六十円ほど同窓会の方で援助しているのである。会場は学校の方が良いという意見がありますが、今回は学校が増築中だったため使用できず、どうしても外の会場を探さねばならなかったのですが、反面、「学校より外の方がよい（少なくとも講堂が出来るまでは）」という意見もあり、一概に決めかねている。

### これから

「これからの総会の形式について」という問に対しては、

今回の様な方式

幹事に一任

考えの必要あり

もう少し楽しく、ある目的をもとう

席を決めず、セルフサービスで

学級主体で行うように

母校で行え

同級の人が少ない

最初と第二の意見は賛意を表したものであるが他の意見はその内容については、批判的に幹事会としてたしかに慎重に聞く価値があるのですが、具体化実行にうつすにはいろいろ疑問な点が多く検討の余地が多分にあるのです。たとえば、クダンス等も併せて、席などもきめず自由に交歓できるように々とありますが、内向的な人達は当然逆にクダンスにクラス単位で話せるようにというわけで調整に苦労します。

## 総括

さて、アンケートを中心にして全体の反省をまとめてみましょう。反省会の問題点と多少、異なるところもありますが、総合的な主催者側の所感として読んで下さい。

☆

☆

(一) 出席者について やはり当初の予想どおりオールド会員は少ない。しかし五期のお母さん方が五く六人赤ちゃんとオムツを変えたいので控室を欲しいと申し出された時には、「本当に良く来てくれました。とても嬉しいですよ」と幹事ならではの感激を味わった。幹事ミウヨリにつきます。また遠くは、柏市、茅ヶ崎市から上京された方もあり不参加の方たちには次回は非多数出席して下さいさるよう御願いしておきます。併せて恩師の方の出席も学校の方へよく御願いしたいと思います。

## (二) 総会開催について

(イ) 回数 予算と時間的(幹事の準備に要する期間)が許されるなら毎年一回でも恩師と先輩、級友がしゃべる集会の場をつくりたいと思います。「紫荷」の発行回数総会の回数が密接な関係があるのでよく考えます。又、毎年開かれる母校の運動会、文化祭の期間を利用することも考えましよう

(ロ) 総会の目的 これはやはり「親睦」を画る場であるわ

けで、同窓会の行事についての報告、議事はなくとも定期的に開きたいと思えます。なお、総会で決定すべき議題が増加してゆく事を私たちも望みます。

(ハ) 会場について、幹事の立場でいえば公共の建物で開けばアルバイトも使わず、設営は、必要な部分のみで、更にあと片づけのわずらわしさもない。しかし母校で開く方が出席する意義も大きい事なので、次回は是非母校で開きたいと思っています。

(ニ) 内容について 四五〇〇名からの会員をかかえているので、各クラス幹事の出席を促してよく検討してみたいのですが、いろいろ形式を変えて実際に出席された人達の意見をアンケートにまとめ研究していくつかの方向をうちだしてゆきたいのです。

総会のアンケートに併せて「紫荷」についての意見を出していただいたので総括して掲載する。

よい (12期男)

とても立派 (11期男)

大変楽しい (4期男)

大変結構 (1期男)

異状なし (5期男)

いつも楽しいもう少し増頁、内容豊富に (10期女)

楽しい内容、ますます充実するように (5期男)

記事が豊富でよし (13期男)



見るべきものはあった現状を続けよ (11期男)

内容は現行のまままでよい、回数を増やせ、会費をとってもよい (11期男)

増頁せよ (12期男)

予算の制約もある故、今年の様な内容でよし (4期男)

執筆者の氏名、卒業期、学校名 (学生なら) を明記 (9期男)

各期の声を掲載せよ (6期男)

もう少し手広く (4期男)

執筆者の人選如何 (内容はとも角) (11期男)

読まない (13期女)

平凡すぎる (11期男)

内容がない (12期男)

お粗末、もう少し気のきいた内容のものを (12期男)

少々貧弱すぎる (12期男)

面白くない。もっと広範囲に (活動がむずかしいことはわかるが) (11期男)

誤植多し、文章下手、もう少しスマートに (旧3期男)

増頁、内容など限られた予算のやりくりした時間とて前号

より本号、本号より次号に向上させる内容を豊富にしたい。

編集子は頑張ります。会員諸氏は、竹の子が、大きく、太く

のびる竹のそのこまかい強いひと節ひと節の根っここのように

栄養源ともなり会をささえて欲しいのです。原稿や構想など、

お気づきの点お聞かせ下さい。

(編集部調)

洋服の事でしたら何なりと御気軽に  
御相談下さい

御一報頂ければ早速にも参上致します

創業三十五年  
高級裁縫店  
○○洋服店

皆葉賢 (7期卒)  
東京都北区赤羽町1~129  
TEL (901) 4 8 0 1

# 声



一年の時は男子クラスで面白くなかった。それで生物クラブで虫などを追っかけて楽しんだ。二年は幸にも男女クラスであった。そんなわけで俄然活気を取り戻し、又相変わらず虫を追っかけた。虫なんか追っかけてると精神面で進歩が遅れるということが後で解った。二年の体育祭が終わったその日から好きでもない勉強をまわりのうるささに負けておくれればせながらやりだしてどうやら入試に運と五分で間に合ったような。それから後は女の人を気にする事と山へ虫を時々とりに行く以外たいして面白い事もなくスイスイと時が経ってしまった。

由井正敏(14期)

文京生のスマート化ということを耳にすることがある。服装等は確かに軽快な感じにはなっている。時代の推移を考えれば、当然のことであろう。ここで気になるのは、スマート化ということが、質の低下というようにとられていることである。もしこれが真実であるならば、何故、諸先輩からの良き伝統を継ごうという気力に欠けるのか、浅薄な考えかもしれないが、それと年々先輩、後輩の親密さが薄れて行くことに起因しているのではないだろうか。この意味で新同窓生の一員とし

て責任を感じずにはいられない。

高山雅知(14期)

「あの頃もよかった」と、ふと思う。

皆純粋で、どんなことも言い、私達は、自分の若さを、クラブ活動やグループや文京祭にぶっつけた。自分の校舎に誇りを持ち、特に屋上は、良きにつけ悪きにつけ、私達にとっては健全かつ、すばらしいところだった。三年間一生懸命だった自分達を思うとき、文京に対する愛が頭をもたげる。

社会の中の私達。文京のときそうだったように、自分達で楽しくやってゆこうという希望がある。こんな気持は、自然に、文京生の中に流れているものらしい。

中村友恵(14期)

在校中にふとしたことから器楽演奏に興味を覚え、右手に弓、左手にチェロを持ち始めてからはやくも五年余の年月が過ぎた。卒業後は母校に顔を出すことも殆んどなく、何か用事があると在校中だった弟に頼んで済ましてしまった。

今考えてみると弟をメッセージャーなどに

走らせずに自分で出かけていけば級友にあつた時に母校の様子を聞かせてやれたのにと反省しています。

夏休み中は長野、九州への演奏旅行に腕を磨いています。私は又、東京労音新交響楽団のメンバーですから、同窓生のみなさん機会がありましたら是非聴きに來て下さい。

高山昌宜(11期)

芹沢栄先生の活字が目に見え、或は、NHKラジオの基礎英語の時間に昔交らぬ独特なふしむわしの講義がきこえる。

總會へ出席してみても、芹沢先生始め、かつての先生方がおみかけするが、旧制時代に去つた先生方は、ほとんどおみえにならない。これは連絡が不徹底なのか、それとも旧制卒業諸氏の熱意の不足なのか、その点、よくよく研究して、来る總會には是非昔なつかし先生に一人でも多く拝顔したいものだ。

(T・K)

戦後の混乱期に卒業証書も、もらわずに、何となく元町校舎で卒業した。

あれから十四年、焼跡もきれいに整備され

て、鉄筋の校舎が立派に建ち並ぶ大塚をみると、「もはや戦後ではない」という言葉が実感となってくる。

校舎が立派になって、卒業生が、増加してくるのに同窓会は一切何をやっているのだろうか。年に一度「紫筍」なる雑誌が届けられる。三年に一度位總會の通知が舞いこんでくる。まだ、同窓生が集る場所の確保さえ出来ていないらしい。

文京高校のPTAは強く団結して体育館をたて図書館を作ったではないか。この際、声を大にして、同窓会館の建設を呼びかけよう。

遠藤敏夫(1期)

図書委員会をつくって図書館活動を充実したものにしよう々と有志で相談して三十四年十二月に四十名の委員で発足した。当初いろいろ困難な問題も多く、しかし委員の強いつながりによって目的達成のため民主的に基礎がためが成功した。私たちは、その活動の中でそしてあるいは親睦会を通しての交わりに大いに得るものがあった。良い経験であったと思う。組織をつくったり、仕事の計画をたてたり、改善をはかったりすることに、その考え方、みかたを、また仲良しグループ

を通して、人間関係の知識を理解し高めることができた。自治会関係とは何のつながりもない独立機関であるため、より今後の活動に期待し図書館の発展とともに活躍してほしいと思う。現委員の方たちは、私たちの基礎の上に尚一層良きものを築きあげること、私たちは、そして同窓会の活動の中に、母校のクラブ活動との密接なつながりをもたなければいけないことをPRしてゆきたい。

細川友恵(14期)  
中村 亘子

或る同窓生が卒業に際して云った言葉は「俺には母校がないよ」

彼は、卒業して商大(現一ツ橋大)へ進学し、名古屋へ就職していった。それきり音沙汰がない。何が、「母校がない」ということばになってあらわれたのか。当時同窓会というものもなく、教職員も自分自身生きることのみとらわれて、生徒に対する愛情というものも、少しも見られなかったからである。彼に「母校がある」と云うことを知らせるには、同窓会以外はないのではないか、幸い我々の代弁者として静谷君などがある。今後益々の活躍を祈っている。

齋藤 仁(旧4期)

皆さんのお通りになるのをながめてた折戸通りの「あたりや」です。

文京生との交際も四、五年のもので、或る面の客観的立場でしか解りませんが、一般学生を含めて一言。よく先輩諸君が母校生徒を評し、覇気が無い、乱れた、と云う言葉で表現するが其れは先輩諸君が人間的にも社会的にも成長したせいであって必ずしも現役諸君が乱れたと云う表現は当たらないと思います。

学生の気風と云うものは各時代、社会状況に依り多少影響され、其の様な面から、目には見えぬ現代の怠惰(寤)的な一般社会の波に踊らされ、自我を見失い奔放気儘で其の自由の規律を忘れ易い社会の内には有っては、現役諸君は常に文京生と云う自覚と誇り、良い意味に於ての反骨の精神は一層必要なのではないか。

総体的に観て一定の節度も弁え、暖たかい情感で伸び伸びと学校生活を謳歌し順次良くなっていく様に思われます。

今野 一 (あたりや)

私が文京高校を去ったのは、去年の六月一日です。もう一年と二月もたったわけです。それほどの時間がすぎているのに、今

でも文京のことが話題になるときなど、「私の学校」とか「私のいる文京」とかと口をいついて出てきます。そして自分で自分のことにあきれてしまします。しかし考えてみますとそれもそのはずです。私が文京にごやっかいになったのは、昭和二十年三月二十一日からです。私の二十七才の時です。それから満十六年と二ヶ月、十七年の間、しかも私が教師という良心の灯を完全に紅にともせたいわば「教師としての青春」を傾注した学校なのです。私の余生涯を通して最も力を注いだ学校です。終戦間近に赴任して来た私、したがって私の次の渡井先生が赴任して来られるまでは最新任の教師でしたから、空襲のため全滅した学校として廃校寸前の苦しい頃の学校と共に今日の文京高校に到る逆を歩んで来た私として、言葉につくせないつかしさを感ずる学校です。去って一年有余、この間、文京高校について多方面の人々からもろ

の批判を耳にしましたし、時には私の意見といわれたこともあります。そんな時の私の心情はまことに複雑そのものです。卒業生の大部分、ことに古い卒業生はそのすべてが、「今はとても良いころですな」と発展を祈念しています、第三者の人には実にきびしい批判を寄せています。そんな時私は必死になって自分でも後になって苦笑がでるほど文京高校の良さを宣伝しているのです、私は文京高校の同窓生ではありませんが、とにもかくにも、私の青春時代を捧げた学校の旧教員として誰よりも文京を愛しています。ですから在校生の諸君と先生方にたいし、ますます努力されて文京高校の名声をあげるよう心からお願する次第です、そして学校を去った多くの同窓生と旧教師の耳に、すこしでもよい文京に対する世評が入りますような学校にしていただきたいとお願いいたします。

菅野 二郎 (旧職員)

### ◎ 養育ノート ◎

黒岩健一 共著 「文学史の流れ」 定価四五円

白 楊 社

東京都  
京都店

東京都文京区林町一〇〇番地  
電話大塚(四)三九九三・振替東京一〇八九二  
京都市北区烏丸通北大路上ル  
電話(西陣)四八二八・振替京都一八六七

昔の校歌、今の生徒歌

古き人は今の生徒歌を、新しき人は昔の校歌を知って何を感じられるでしょう。

旧校歌

あかねの色よ新らしき血潮よ  
おゝ、或ら永久に呼ばん文京、文京

世間に知られた文京の

名物教師のたなおろし

二つとせ

……………

昔は昔の良さがあり、今は今の良さがあり、今を知ってかつての若き日々を思い出し、古きを知って先輩達の日々の生活をしのぶ。

人が世を変え、世が人を変える。しかしいずれの日もその人にとって良き日である。

文京生徒歌

あしたのぞめば遙かなる

ふじの高嶺にまことあり

めざめよ出でよほまれあり

あゝ 我ら今ぞ呼ぶ文京、文京

さやかにほがらかにいそしみ励み  
滅私奉公たゞ一筋に  
未来の日本負ひ持つ民と  
伸びて果さん負荷の大任  
おゝ第三東京市立中学校

「おゝ……………」と伝統

生徒歌の「おゝ、我ら……………」と旧校歌の

「おゝ、第三……………」とは奇しくも似ている

というのか、一致している。良く文京の卒業

生はパンカラなところがなく、良く云えば誰

れも彼れも「人格円満」で悪く云えば「頼り

ない」と聞く。当然とも遠からずか。

我々の時は先輩のを改良して

一つとせ

数えうたなるものを作って運動会の帰りなどに羽織ハカマで折目通りを歌いながら歩いたもんだ。下級生が是非残し歌い続けたいから教えてくれと来たので一通り教えて卒業したんだが、最近ではその懐な歌は知らないと在校生の誰れもがう云う。話はチヨットそれるが、先輩の一人が富士山で雪崩にあい亡くなられた時次の様な拙詩をかいた。

先輩は逝く

雨風の強き山に若人が

今日も元水に登るけど

激しき雪崩に会った時

若き肉体をものがけれど

冷き雪に伏し泣きて

父母に別れを吾げた時

神はみ魂をいだきとり

富士の峰より高い望所

尊ぶときみ魂去りてより

静かに眠る星の夜は

さあれ入日にあかねさす  
ふじの高嶺を望むなり

雪崩の音も消え失せて

光もささず訪れもなし

いそぎかけつく父の目も

弟妹の目にも涙落ち

東の空はほのほのと

まばゆく光る峰の雪

と。そしたらすぐみんな富士山をみに屋上に  
かけ登った。毎日く晴やかな頂きに雪をの  
せた富士が見え、「何んで先輩が亡くならね  
ばならないのか」とくやしがつたもんだ。

これらと思う時「人格円満」も本当に結構  
だ。うんと、どっさり勉強をされるもまた結  
構なこと。だけど身近かにはクラスメイトと  
階上には先輩と、みんな同じ屋根の下に生活  
しているということなどを忘れてるんじゃないか。  
と、先輩として残念に思いながら一  
方自分の心を疑ってみたけれど。

諸兄弟にはこの頃の高校生の生活ぶりをこ  
らんになってどのように感じ考えられます  
か。

### 「図書館とは自習室なり」

或る日のひと時新館三階へ登って図書館を

のぞいてみた。

先づ眼につくことは人影の無いテーブルに  
は教科書とノートの上にイングリッシュ・ディ  
クショナリーが一番上にハバをきかすように  
置いてあること。いる人は時々顔をあげて何  
やら暗誦しているのか口をモグく動かして  
いる。なんとなくがっかりした。というのは  
あんなにどっさりある本を有効に利用してい  
るのかしらと。きつと図書館運営費なるもの  
を納めていると思われるのに。いや、これは  
思い違いかな。きつと読む本は借り出して  
るんでろう。特別に偉らぶるわけではないが  
我々の時には、最初きれいなはずだったアン  
リ・パルビュスの地獄のところなど、卒業の  
頃に今一度手にしたら黄色く変色しているの  
を覚えている。最近では「図書館とは自習室  
なり」かな。公共図書館に匹敵するほどの図  
書館なの。

### 運動場をイモ知に

「その昔、ツルハシを肩に登校してグラ  
ンドを掘り起しサツマイモやトウモロコシを植  
え育てるためにコエタゴをかついだものだ」

とはオールドボーイの話。が、その運動場に

はバックネットも備えられ、地面も堅いけど  
一応平らにならされていて結構立派なんだ  
が、その大部分を利用してしかるべきはずの  
野球部員が夏の予選を終えてから六人になっ  
てしまったとか。これじや試合を申し込まれ  
ても出来るはずがなく、たゞ台風前の雨でき  
れいに洗はれて細かい砂が光っているだけ。

来年度は野球部もつぶれるんじゃないかとそ  
の予算をいただくべくかんじょうしている部  
があるとか。いやはやである。また畑にでも  
すれば良きなつかしきオールドボーイの連中  
がすばらしい知恵をかしてくるんじゃない  
かなあ……………。

### 「椎の木」はバラソル

あの閉めても閉めなくともよさそうな焼  
ただれた鉄の門(?)は到々取り除かれてし  
まった。お父さん方(オット失礼旧制の先輩  
お許して下さい)には「もう昔の面影は失っ  
た」と嘆かれるかも知れないが、それはチ  
ット気が早い。少しかしいでみえるようなあ  
の金庫の他にもう一ツ昔のかたみ(?)があ



りますよ。それは新しいスマートな門を入った正面にある「椎の木」。直径は三、四十

樞位あるだろう幹。枝ぶりは幹を中心にして半径二、三米位の円内に東西南北に陽をもらさんばかりのぼし、葉もぶつかりかさなりあっている。真夏の午後になると、左側（椎の木の左側の方で、新らしくは取りこわされる前の大塚中学の校庭）の二面だか三面だかあるコートからショートパンツ姿でラケットを抱きながら陽影を求めてあの椎の木の下面にやってくる。というのは立っていても頭がつかえず、尻をのせる根もあるし、風には傾かず屋根からはそれが吹き込んでくるという具合だから。それに練習が終ってネットをかたづけただあとに、バラソルをたたまなくとも良いんだもの。

椎の木で古き人は何を思い、何んで泣いたか。新らしき人は何を思い、懇んだか。「至誠一貫」の校訓は今もあるが。

「破かれた新聞」

確か新聞部として華やかにインキのい

かがせてくれたのが七、八年前のことだったと記憶している。部の発足の時に寄り集った連中はさっそく部員証なるものをパス入れに持って記者面していたのを……………。

運動会の日にはガリ版刷りのやや見難い号外を、マラソンのタイム等を載せて、それも二号、三号と刷り出していったもんだ。四、五年前の運動会の当日など一記者が運動会の感想を求めて来たので、先輩面をして一筆ものにした。それを号外に刷って二、三十分後にお礼かたがたもって来てくれたもんだ。これ程、盛んに活躍していた新聞部だったのだが、その後は低調気味だとは聞いていたが……………

本年は部員がたったの二名になってしまったのでとうとう部がぶつつぶれたと。なにがそうさせたのか。

「字が上手になった」のか

「落ち着いてきた」のか

ぶつぶつ部がついに立たか（消えたか？）とがっかりしながら体育館の方へと一階の廊下を歩いて行ったら、左側のウインドの中に

幾枚もの金色の四角い紙が光った。「何だろう」とのぞいてみたらこれがまた立派の一語。上から下へ「みごと」な筆の流れ。その流れが一本だけなら格別に眼をパッチリあけないんだが、十本位はあったからモリや素晴らしかったよ。それぞれの流れを裸のままのややほこりをかぶりそり気味になった賞状がたてかけてあったのにはいささかもったいなく不つり合いなのが残念だったよ。その上に、あの薄暗らい北向きのいかにも湿気

多そうなウインドの中に飾っては、仲々目につかず、泥んやたまに来校した卒業生にも来客にも見てもらえないだろうと、もっと明るい玄関に近いところに飾ったらと勝手に心配もした。いやーやっぱりあの素晴らしい「特待賞」「連盟賞」「教育長賞」「……………賞」……………と書き貼られた金色の光を輝やかせるにはもつてこいの薄暗さなんだろう。「しぶさ」だろう。

世の中が落ち着いて来ると人も落ち着く。（台東連盟展に出品したそうです）

## カラまわり



やまもと・しげお

仕事の都合で、夏の初めの数日間を北陸路の富山で過ごした。近年の夏山登山は驚くほどの増加ぶりだがシーズンも盛りとあって、旅路の車はまさにむし風呂状態。若者のたくましい二の腕。娘たちのきりりとしまったからだ。みんな溢れるエネルギーを内にして高校以来成長率(?)の悪い小生など身のやり場をいかんともしたがたかった。

こんな中で、私はふと思いついたことがあったのだ。世はまさに、A・M・M(アンチマイル)からA・S・S(アンチ衛星)の段階にある。先日新聞ではH君の太平洋横断の記事に少なからず快哉の声を上げたはずなのに、きようはポストーフ三、四号の成功と続き人間の未知に対する追究力と探求心ほど私たち個々の思考を結集させる要素をもつものはないのではないかと、改めて人間間の機能面での連絡に単純な過程をふり返らねばならないことに気づいたのである。

思考の過程を論ずる以前に今日の世情はボタンに、スイッチに集約されたものになり個人の微妙な差を無視している状態だ。いい例が、レディー・メードのズボンでありワイシャツで私たちが手軽に利用できるといふことで成長させた文明だろう。

九五パーセントを占める職業が農業といわれる地方に、ボタンと建てられた私の職場は、職員数一五、児童数五百余だが、私は、今まで

この職場を大海と心得てぶつかって来たものだ。勿論「井の中のかかず……」式の大海と感じたのではなく、H君が乗りこえた試練と共通する心意気であり、ポストークがたどった未知の道に対する探さくであつたのだ。

農家の子は、口が重たい、動作がぶい、表現が少ない。今でも世間一般の見る目はこんなところにつきるらしい。実際、私が勤務して四年、何一つ、まとまった結論は引き出せていないが、実際の過程の中でいろいろなものがつなぎ合わされ、或いは、離れ、又、引き合いつきつめられて結論が割り出されるのが私なりの生き方なのだが……。しかし、口が重いことにより意志の疎通、動作が鈍いことによる主体性のなさ、表現の少なさによる排他性などと他人の感情はおかまひなしに、本人をその環境にあがきつづけさせる害がなきにもあらずなのだ。

私の高校時代も、ご多分にもれず進学ピッチで進められ、成長してきたのに、今日振り返ってますますそのピッチが速く、成長率が高いのには感心すると同時に、レディー・メードのズボンに似た文明社会の進行に、当惑せざるを得ないのが、いつわらざる心感である。

人格の完成を目ざすステップに勤務する私にも個性を發揮してはならないと明記したものは何一つない。

思い返すのは、車中での若者たちが、ひとりひとり、自分のコースを検討し、準備を積みあげ、余力のある中で実行されているのか否かである。

私たちが、たんに、児童を教えようとしても子どもらは、振り向こうともしない。自信と追究力を持って打ちこんだ球は、見事、子どもら目の目に、耳に、そしてからだ全体にぶつかって受け止められる。

人間が文明の利器を活用し改善していく力にはとどめるものではないが、使う個人のゆとりを持たせぬ事物にはしよせん、振り回わされることしか知らぬことになりはしないだろうか。

(7期卒業)

# 日本行脚



黒岩健 一

「ッにっぼんあんぎや」と言えは、相いも変らぬあの先生の大ゲサ、大ホラ、大風呂敷は衰えないな、と思われそうだが、実際、今年で十年、去年の北海道につづき、今年の九州一周で、一応、全国のめぼしい所は見おわったようだ。

十年前これを計画した国語科(阿部、遊川、坂本、井出、田崎、西岡、後藤(神)、黒岩)は毎年の参加者に、多小異動はあったが、大体六名ぐらいの者はいつしよになって、目的地へ出かけていった。国文学に出てくるを、なるべく多く見ておこうというのがねらいでかなりその目的は達成したようである。ちょっとめづらしいくわだてだった。

十年目のこの夏は、筑紫の大宰府に「大鏡」の跡をたずね、長崎ではオランダ坂にジャガタラお春さんを偲び、博多の水城では防人の悲しみを想い、阿蘇の山里には孝女白菊の歌を口ずさみ、青の洞門では恩讐の彼方を語り合い、日向、高千穂では古事記の神話、伝説を聞き薩摩半島南端にかすんだ鬼ヶ島には、平家物語の俊寛、有王の悲劇を思い浮かべた。

長い間、この旅行には、つらいこともあった。たのしいこともあった。おもしろいことも出あった。今年もうれしかったことの一つに、霧島の山の中の宿舎へ、思いもかけず卒業生がたずねて来たことだ。通知したわけではなかったが、川内川の霊地で、ダム工事をやっているというO君が、二十里の山坂を越えて、途中でジューブのガソリンなくなったりしながら、再会しに来てくれた。床をならべて寝た宿舎の一夜は、むかし話がつきなかった。

旅行メンバーのうち、ひとのことは、さしさわりがあるので、私自身について言ってみれば、最初この旅行に出た時は、かなりまだ黒かった頭髪も、いまはすっかりさびしい。汽車の時間表も老眼鏡をかけたら見えない。自分たちが歳月のシワをいつとはなしに額に刻んだのに引きかえて、あちこちで会う教え子の、なんと立派になって活躍していることよ。これも旅で痛感した一つの嬉しさでもあった。

学校も、モデルスクールとは言いながら、教室がなくて、不自由な思いを卒業生のみんながして来たが、この夏は新館が竣工し、まず面目を一新した。同窓生が来てもらっても、固いイースに腰を痛くさせて話すこともなさそうだ。

日本行脚も一応おわると、十年間の思い出がなつかしいように、教師生活も年をかさねて来ると生立っていった誰彼を恋しくう気は、年とともにつのるようだ。



西岡、布施、坂本、井出、黒岩、田崎より左

昭和 37 年度 卒業生 進路 状況

就職は37年卒業生のみ)

進 学 名	37年卒	35年卒	36年卒	計	進 学 名	37年卒	35年卒	36年卒	計
国立					私立				
東 大	1	1		2	早慶明立法日中理上學芝青武キ慈昭星東日電農工東大國共武成女そ	12	14		26
一 ツ 橋	1	4		4	智 院工院教	3	5		8
東 工 大		2		3	習浦山蔵ス恵和 本 學 學 立蔵城養の計	2	4		6
教 育 北		2		2	子 榮	2	2		4
東 京 北		4		4		4	7		11
電 千 葉	1	1		2		3	4		7
外 通 語	1	1		2		4	3		7
埼 玉 芸	3			3		1	2		3
東 農 工 船 産 城	4		3	7		1	1		2
商 水 茨 信 高 都	1			1		1	1		2
計	18	33		51		1	1		2

職 業 別	37年3月		
	男	女	計
金融・保険・証券業		29	29
商 事 会 社		7	7
製 造 会 社	3	9	12
卸 ・ 小 売 商 業		1	1
運 輸 通 信 業		1	1
サ ー ビ ス		1	1
公 務		5	5
そ の 他	1	3	
計	4	56	60



弁護士 旧1期A組

渡辺剛章

文京区西片町10  
(921) 2989・7704

編集後記

□ 本年は、活動のスタートが遅かつたうえに十月十一日十二日（文化祭）十四日（体育祭）のPRを載せて発送しようというので大変いそがしい思いをした。暑い暑いと云いながら、最后には、菊池先輩まで引出して編集、なんとか間に合わせる事ができた。毎度のことながら印刷には悩まされる。短期間に最低の費用で「これでやってくれませんか」と押しつけるのだから好い顔で引受けてくれるところは少い。

□ 本号に特別寄稿していただいた山田校長の御挨拶は、同窓会の活動を示唆する名言と云います。いつも私たちは「前むきな姿勢で会の活動をきめてゆきたいものです。」

□ 「第三回総会を顧りみて」は総会の記録という印象が強く読物としての魅力はとぼしいが、資料として今後の総会の運営の方法に活用したいと思えますので御協力願います。

□ 企画、編集部合作という方針ではじまり三ヶ月間皆よく頑張った。編集、印刷の中心となつて活躍して下さった菊池先輩が、この仕事を最後に独身生活にピリウドをうつ。御多幸を祈りながら心から御礼を申し上げる、今年よりは来年、ハイテイーンから脱皮してゆく同窓会へ期待して下さい。

◆ 本号の編集者 ◆

細川(14期)中村(14期)  
高山(13期)由井(13期)  
木村(13期)杉本(12期)  
高橋(9期)皆葉(7期)

文京高校同窓会会報

『紫筍』第七号

昭和三十七年十月一日発行

発行編集 文京高校同窓会

印刷所 高崎印刷所